

フライヤスヘーブ総合保育園

お話：ベネディット園長

報告者：清水 武

★はじめに

総合保育園とは、乳児保育（0歳～2歳）と幼児（3歳～5歳）を継続保育する保育園です。私たちが訪問したフライヤスヘーブ総合保育園はロスキレ市の8か所のうちの一つです。乳児29名幼児44名計73名を15名の保育士と実習生（有給）1名、調理師1名園長の18名の職員で見守っています。



★保育方針

①自然の中で遊び、自然に学ぶ。

園庭は芝生部分と高さ5メートルのなだらかな斜面の小さな森の小山の部分からなっています。砂場には雨水を貯めるタンクがあり、それを芝生に掘った溝に流すそうです。雨雲一雨一子どもたちが手動ポンプで水を流します—20センチの川ができます—橋を渡る子どももいます。できた水たまりでカラフルな長靴をはしゃぎまわります。雨上がりにはあちこちに歓声が上がります。

森の小山には隠れ家があります。自分が子どもの時、秘密基地で遊んだド

キドキを思い出してください。子どもたちは木登りも好きです。まだ小さい子がうらやましそうに見ていました。ターザンごっこも大好きです。ロープのゴム輪をしっかりとつかんで青空に飛び出します。次の子がゴム輪をしっかりとキャッチして、また飛び出します。みんな順番を守っています。

②自立と自己決定を育む。

園舎に入るとすぐカラフルな子どもロッカーが目飛び込んできます。扉なしのロッカーの上段には木製のおもちゃ（プラスチックのものはない）が、下段には着替えの服と靴が並んでいます。デンマークの子どもも明るい原色が好きです。赤青黄色、チューリップが咲き誇っているようでもう楽しい雰囲気になります。すべて私物で自己管理をしています。

お昼寝室には、木製の乳母車の形をした二段ベッドがあります。自分ではしごを登り、転落防止の安全ベルトがあります。下段には安全ベルトがありません。拘束を嫌う大きい子が寝ます。部屋の隅で保育士の一人が子どもに子守歌を歌っていました。



落ちた子がいます。救急車で運ばれ

昼食は二部制です。ほとんどの子どもは、遊びで腹ペコですから前半に集まります。遊び場を独占したい子どもやまだ食べたくない子どもは後半を選びます。

③社会性を育む。

小さい子どもたちが、六人用ブランコで遊んでいます。保育者が揺りかごのようにゆらしています。みんなの笑い声が聞こえてきます。みんなと楽しめば何倍も楽しいことを経験します。

大きい子どもたちは自転車で小山を駆け巡ります。でも平地の足こぎ（補助輪はない）の幼い子を追い抜くときは、スピードを落とします。配慮しているのがわかりました。

園舎には子どもが発表する小劇場があります。2、3歳ぐらいの子ども8人が、保育士のまわりに集まっています。子どもたちが決めたサーカスの出し物を、床に座って話し合っていました。みんな劇が大好きだそうです。みんなで協力して作っていく喜びを経験します。

小劇場にははしごで登る隠れ小屋があり、ちびっこギャングたちは、園長の説明を聞いている私たちをすき間から観察していました。興味津々の笑顔です。

★質疑応答

Q：子どもたちの食の安全はどうですか。

A：おやつ（にんじんスティックやバナナの輪切り）や昼食はオーガニック専門の調理師がつくっています。無農薬無添加です。

Q：木登りでケガをする子はいないのですか。

A：以前、登っている途中で怖くなって



ましたが、軽いケガでした。両親にいてねいに説明して納得してもらいました。子どもたちが登る木の下には木のチップを埋めています。

Q：職員の勤務体制はどうですか。

親たちは毎日時間通りに子どもを迎えに来ます。職員の家庭生活は保障されています。

補足事項：おむつ替え台が、ボタンで職員の腰の高さに調節できます。子どもたちと一緒に食べる食堂は、大人の高さです。子どもたちは安全で二段になっている椅子をつかいます。勤務で腰を痛めない配慮がなされています。精神面でもとても良い職場だと思います。職員全員はゆったりした私服です。物腰もゆったりした雰囲気です。庭で遊ぶわが子を見守るお母さんのようでした。ここでは楽しい思い出だけが毎日つもり重なっていくようです。子どもたちも職員もストレスをあまり感じないのではないのでしょうか。

Q：いじめはありますか。

A：手シャベルで友だちをたたいた子がいます。「シャベルは土を掘るためにあるのです」と繰り返し使い方を見せました。